

アンケートへのご協力をお願いします！

大学院工学研究科博士後期課程改組（構想中）のお知らせ

※研究科・専攻名および構想内容は、検討中のものであり変更する場合があります。

国立大学法人 岩手大学 大学院（博士課程）

平成31年4月 理工学研究科 へ改編予定

－ 工学研究科（博士後期課程）から理工学研究科（博士課程）に変わる予定です。－

改組の背景

岩手大学は、平成28年4月の学部改組（工学部から理工学部への改編）、平成29年4月の大学院博士前期課程（修士課程）の改組（工学研究科博士前期課程から総合科学研究科の理工学専攻への改編）に引き続き、平成31年度に大学院工学研究科博士後期課程の改組を計画しています。この改組において工学研究科博士後期課程は、これまでの工学分野に理学系分野を加えた「理工学研究科（博士課程）」へ改編され、社会の要請に応える高度専門職業人・研究者の育成、持続可能な社会の構築、イノベーション創出と知識基盤社会の構築に貢献します。

工学研究科博士後期課程【定員20】（現行）

専攻名	教育研究分野
フロンティア物質機能工学専攻【9】	環境エネルギー
	マテリアル創成
	フロンティア化学
電気電子・情報システム工学専攻【4】	電気電子工学
	情報システム工学
機械・社会環境工学専攻【4】	機械知能工学
	建設システム工学
デザイン・メディア工学専攻【3】	デザイン工学
	メディア工学



理工学研究科（博士課程）【定員18】（改組後） 定員は暫定数

専攻名（仮称）	教育研究分野（例）
自然・応用科学専攻	化学 生命科学 数理・物理学 材料科学
システム創成工学専攻	電気電子通信工学 知能情報工学 機械工学 社会基盤・環境工学
デザイン・メディア工学専攻	デザイン工学 メディア工学

*生命科学系、数理・物理学系の教育研究分野が新設されます。

改組の特徴

1. **企業や自治体等との連携を強化した教育研究プログラム**（分野横断、実践的な選択科目を開講するとともに、共同研究と連動した学位取得を進めます。）
2. **複数教員による研究指導体制などの新しい教育プログラム**（複数の教員による体系的教育と研究指導による、多角的、重層的な教育研究支援体制を準備します。）
3. **多様な学位が得られる**（現行の博士（工学）、博士（芸術工学）に加えて、博士（理学）、博士（理工学）の学位を予定。）
4. **経済的支援の充実**（社会人学生のための授業料免除、学会発表支援等を充実させます。）
5. **早期修了制度の充実**（修士課程での学修または企業等での研究実績を考慮した早期修了制度を導入します。）

入学者選抜方法（予定）と入学実績

（社会人入試）
選抜時期：第1期（8月末）、第2期（1月末）
入試方法：筆記試験（外国語）、面接及び口頭試問
 （志望する研究分野や修士論文に関係する内容、プレゼンテーション試験（デザイン・メディア工学専攻））
社会人入学者実績（過去5年間）：7名（H23）、12名（H24）、8名（H25）、8名（H26）、6名（H27）（注：一般入試社会人有難含む）

経済的支援

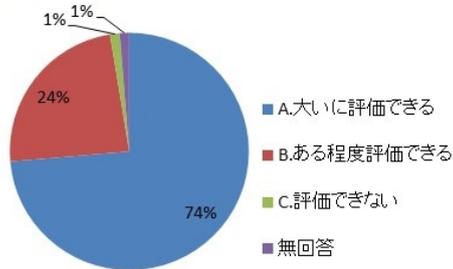
研究遂行協力員制度（半期授業料の半額免除、主に社会人学生対象）など

教育研究分野の専門領域の例

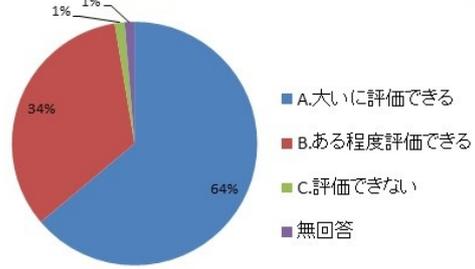
化学：無機化学、有機化学、物理化学等
生命科学：細胞工学、再生医療工学、生体機能、生命分子システム等
数理・物理学：数理科学、物性物理学、高エネルギー物理学等
材料科学：金属生産工学、エネルギー材料科学、有機機能材料科学等
電気電子通信工学：電子デバイス工学、通信・電子システム工学、電磁エネルギー工学等
知能情報工学：計算機科学、知覚情報処理、機械学習等
機械工学：航空宇宙工学、ロボット工学、精密加工工学等
社会基盤・環境工学：建設工学、環境工学、防災工学等
デザイン工学：プロダクトデザイン、地域デザイン等
メディア工学：コンピュータアニメーション、イメージシンセシス等

資料8 企業等アンケート調査集計結果

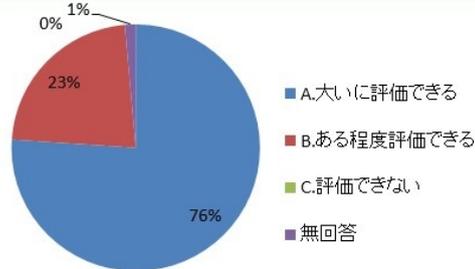
問1. 「改組の特徴」に掲げた項目1「企業や自治体等との連携を強化した教育プログラム」について、企業・団体等の立場から評価できますか？



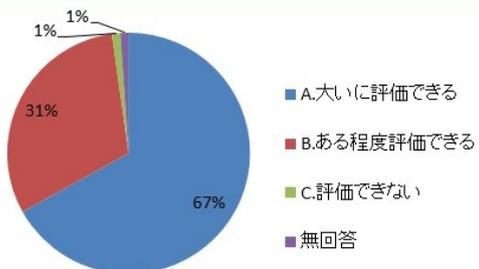
問1. 「改組の特徴」に掲げた項目2「複数教員による研究指導体制などの新しい教育プログラム」について、企業・団体等の立場から評価できますか？



問1. 「改組の特徴」に掲げた項目4「経済的支援の充実」について、企業・団体等の立場から評価できますか？



問1. 「改組の特徴」に掲げた項目5「早期修了制度の充実」について、企業・団体等の立場から評価できますか？



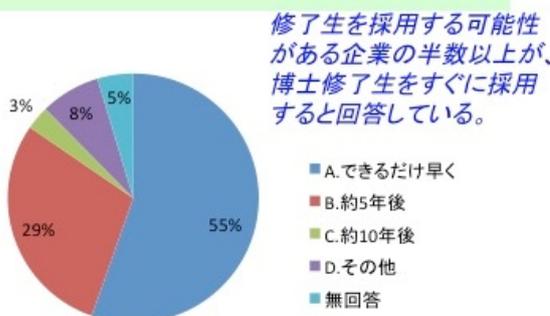
問3. 今後、理工学研究科の博士号取得者を採用する可能性はありますか？



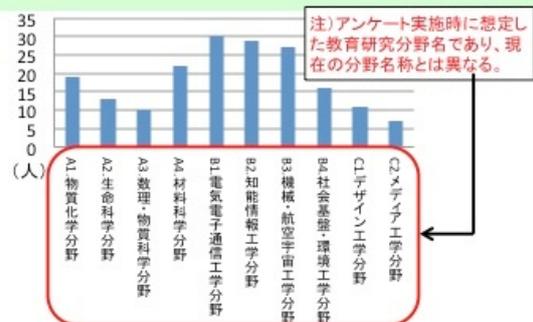
問4. 設問3でAまたはBと回答した企業→理工学研究科の博士号取得者を採用する場合、どのような能力を期待しますか？(複数回答可)



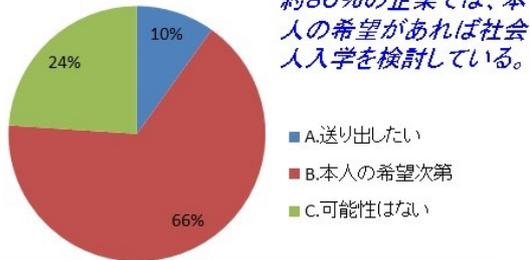
問5. 設問3でAまたはBと回答した企業→採用時期はいつ頃になるでしょうか？



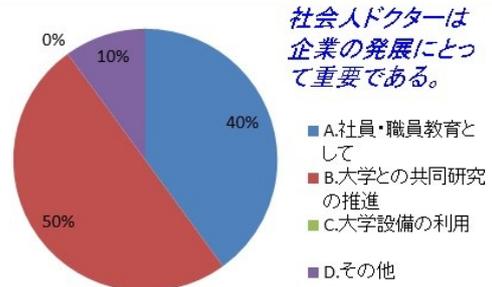
問6. 設問3でAまたはBと回答した企業→どの分野の博士号取得者を採用したいですか？(複数回答可)



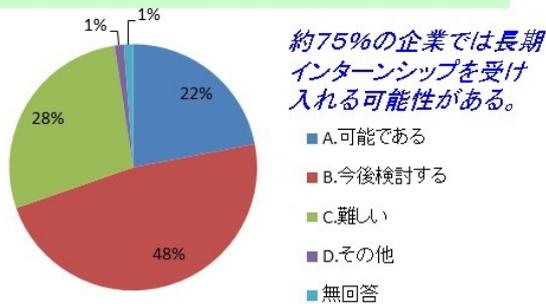
問7. 社員・職員を博士課程に送り出す可能性はあるでしょうか？



問8. 設問7でAと回答した企業→送り出したいと考えている動機は何ですか？



問9. 博士課程学生の比較的長期(1~3ヶ月)のインターンシップを受け入れることは可能ですか？



問10 改組計画を含め、博士課程に対するご意見、ご要望をお聞かせ下さい。

- 博士課程の理解が広まれば、より社会での活躍の場も増えていくかと思う。社会に身近な教育、研究機関であることを望む。
- 今後、企業の研究者は博士の割合が増えると思われる。その中で、博士の方々には研究分野を土台にしつつ、異分野への興味を持てるようになって欲しい。
- 理工学研究科への改編により、問題解決能力を有した学生が社会に輩出されることを強く希望する。
- 博士課程の学生に求められる企業の要望は専門知識を生かし、自ら開発テーマを企画し、実施するリーダーとなる人材。早期修了制度は大学の特徴出し（人集め）には良いと思うが、学力レベルの維持は難しいと思う。
- 情報に対する反応の早さ、及び知識や技能を活かせる応用力を、ぜひ教育していただきたい。
- 企業としての特質から、学究型のタイプではなく専門能力をいかに円滑にコミュニケーションを図りながら活かして事業に反映させていけるかの学生を望んでいる。
- 建設業法上の指定学科・専攻にあたるのが現在わかりかねるが、機械技術職・電気技術職の採用は毎年募集しているので、宜しく願いたい。
- 当社も1名岩手大学に受け入れていただいた。建設コンサルタント業界の業務内容も変化が大きく、専門性が要求される例も増えてきた。大学と企業の連携が今まで以上に必要になると考えている。
- 研究シーズ、技術を産業応用できる人材の育成に期待する。
- 博士卒はあまりにも専門領域が狭い場合が多く採用しづらいが、このような複数の専門領域を持つ博士であれば採用可能性も高くなると思われる。
- 基礎研究の充実をお願いしたい。
- 社会人大学院生としては、長期間貴大学で実験・研究するのは難しいので、会社内で研究し、月に1~2回程度、教授とのコミュニケーションで済む様な形態が望ましい。あるいは、スカイプや電話会議システムなども一考の余地ありか？
- 高い専門性を持っていることからこそ、それを伝えることができる高いコミュニケーション力が重要と思う。特に弊社の採用においてこの2点は最も重視している。